

開会のご挨拶



木村 容子 先生

東京女子医科大学 東洋医学研究所

お茶の水女子大学を卒業後、中央官庁入省 (国家公務員1種)

英国Oxford大学大学院 修士課程修了

2000年 東海大学医学部 (学士入学) 卒業

2002年 東京女子医科大学附属東洋医学研究所 助教

2007年 同研究所 講師

2008年 同研究所 副所長

2010年 同研究所 准教授

2019年 同研究所 所長 教授

本シンポジウムは、寺澤捷年先生、後山尚久先生と歴代のコーディネーターが続けてこられた「こんな時には漢方を」の基本コンセプトを継承しつつ、『漢方エキス製剤の上手な使い方 ~困ったときのこの一手~』と題し、新たな目線で現代医療に漢方エキス製剤を取り入れる実践的な方法をご提案いたします。

今回は、小児科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、形成外科、婦人科、甲状腺科、漢方診療科の先生方にシンポジストとしてご登壇いただき、幅広い分野にわたる漢方治療の実際についてご紹介いただきます。

第一部は「困ったときのこの一手」と題して、各診療科領域の先生が日常診療でどのようなことに困り、漢方治療を取り入れているのか、その具体例をご紹介します。

第二部では、「八味地黄丸」と「白虎加人参湯」を取り上げ、各診療科での使用経験や有効例を通して各処方方の臨床応用、さらには使用目標、すなわち現代の“口訣”を考えてまいります。

各先生が患者さんを診療される際に頭の中で巡らせている考えをできる限り具現化し、皆様にわかりやすくお示しすることで、明日からの実臨床に役立つシンポジウムを目指したいと考えております。